

しんこう

(題字：植田美夫)

発行人 植田美夫
 編集人 原 洋志
 泉 善高 中原悠司
 小林 博 山本詠子

東日本大震災で被災されました進交会々員の皆さんへ

近畿支部長 植田 美夫

この度の東日本大震災により被災されました進交会々員・そのご家族・関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。私共は16年前に阪神・淡路大地震で一瞬にして鉄道・道路・電気・ガス・電話等々が各地で寸断された大災害の経験をしています。今回の地震は過去に例を見ない巨大な規模の上に、大津波の被害そして福島原子力発電所の放射線漏れと阪神・淡路の大震災とは比較にならない被災の状況でその甚大さは想像を絶するものであります。今は只々一時も早い福島原発の鎮静化と一日も早い被災地の復興を心よりお祈りする次第です。

昨日電気店を訪問したところ、つい先日まで山積みだった乾電池が棚から全て消えていました。商品が東日本へ回送されたのであれば納得ですが、買占めによるものであれば是非慎むべきものと思いました。むしろ関西在住の私共が今なすべきことは普段通りの生活に加え、徹底した節電とガソリン・灯油の節約に尽きると思います。3月17日付日経プラス1に今すぐ出来る節電方法が下記の通り掲載されていました。是非実行したいものです。

- ①電気を使う暖房器具の利用を抑える。 ②つけっ放しを止め、待機電力を節約する。
 ③照明の使い方に気を付ける。 ④テレビは省エネモードにする。 等々

被災されました進交会々員の皆さん、どうか現状のご心痛・ご苦勞を乗り越え、明るい未来に向かって頑張ってくださいたく存じます。そして一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

進交会新年会に参加して

近畿支部長 昭34商 植田美夫 (茨木市)

去る1月29日(土)社団法人進交会の新年会が崎陽軒本店にて会員及び来賓総員150名が集い盛大に開催されました。

坂本理事長の挨拶に始まり、来賓の本多大学理事長・布施学長・山本Y校長のご挨拶があり、内容の一部を下記に掲載します。

- ① 今年1番の明るいニュースは文部科学省から科学技術振興奨励賞として10年間50億円の研究費を蛋白質の研究として受けることになった。当奨励賞は国内2グループのみであり、当研究は学内だけにとどまらず民間との協同研究にも使用出来、大変有意義な研究助成である。
- ② 公立大学法人になって7年が経過し、次の長期計画を立案したい。現在公立大学だけでも全国に約80大学あり、少子社会の中で今後大学の存亡をかけた戦いが益々激しくなる。生き残りのための計画を立案したい。
- ③ 世界も国内もどんどん変革している。今後は各学部個別ではなく大学の総合力を発揮して、変革の先導役になって情報を発信していきたい。
- ④ Y校は来年創立130周年を迎える。我が国の社会も経済も大変混乱を極めている。今こそ校歌にある「誠を守る」気概が大切だと思われるので生徒にしっかりと「誠を守る精神」を教育して参りたい。



挨拶される (左から)深谷副支部長、布施学長、坂本理事長 植田支部長、田代副理事長



会場は崎陽軒大ホールにて

近況 雑感

昭34商 野口 幹夫 (神戸市)

ふっと思う。あゝもう定年退職をしてから15年が過ぎたのかと。かつて横浜市金沢区町屋町乙艦海岸の近くにあった学生自治寮江風寮(1955年～1972年)のOBで主に西日本に居住する者達で構成する西日本江風会という会があります。この会は年に一度全員が集まり旧交を温め合うのを常としています。この会では全員が4～5分のブリーフコメントをします。昨年私は最近「死ということ」について思いを致し「自分の死に様」について考えることがよくあるという話をしました。長いようで短い75年の人生を生きて来て、自分の命はいつ費えるのか。それは神のみぞ知る。誰にもわからない。10年かも知れないし、20年もあるかも知れない。75才の峠を越えると、もうその先は知れている。だから今度はどう死に到達するか。その死に様を考えねばならぬ。その意味からも江風会の諸兄の生き方は有効であり考える素を呉れている。その多彩な個性の生き様を己の死に様に参考にさせて貰おう。



日本人男性の平均寿命は79才を超える。所謂超高齢者社会の様相を呈している。その結果、高齢者の認知症、アルツハイマー病等の正常記憶・判断力に欠如した者の数が増加し社会問題化する懸念が謂われている。寿命は最低限度の判断力と行動力を有した命。つまり有効寿命でなければ生きてることが哀しい。この有効寿命の保持延長策としては、身体を動かすこと(各種スポーツ)と負担にならない程度の思考を働かすことが必要であるように思います。そして健康であるための要件として丈夫な歯を保つ必要があります。丈夫な歯の保持に大切なことは、朝夕食後の歯磨きと歯磨きの後に行う「空磨き」を実行することです。私は30年間この「空磨き」をしてきた。その効果で虫歯は一本もない。この「空磨き」のことは30年前に取引先の社長さんから薦められたもので、食後の歯磨きの後1～2分間ブラッシングをします。その社長さんは当時70才の高齢でありながら兵庫県の歯番付けナンバーワンであることが自慢でありました。

私は年間70回のゴルフラウンドをこなし、月2回のカラオケ同好会は15年以上、社交ダンスは10年以上継続している。神戸に多いコントラクトブリッジクラブに加入し月3回のコントラクトブリッジで頭の体操をしている。神戸市西区区民センターで4月から開講される2011年春季ギター講座に入講手続きを済し、毎週土曜日の午前中1時間のギターレッスンを始めています。

こんなことをしていると、とても7、8年では死ねないなと思ったりしています。青春の心持ちの維持が有効寿命に特に大切と思うので、我が青春の証しであり礎である江風寮の寮歌をここに記載させていただきます。筆を置きます。

江風寮 寮歌

坂本 忠蔵 詞
平田 孝子 曲

1. 鷗飛び交う乙艦に 集い来たりし十五の健児
喜怒哀楽を共にして 夜を徹しても語り合う
江風寮の名の下に 互いに誓わん明日の日を
2. 新緑包む我寮の 空に映ゆるは十五の心
遠く故郷を慕いつつ 海のささやき耳にして
江風寮の名の下に 互いに結ばん意気と意気
3. 社会の風波何のその 闇に映ゆる十五の灯
真理の道を究めつつ 愛と友情手に握り
江風寮の名の下に 互いに進まんおのが道

かっこよく死ぬのか、しぶとく生き抜くのか、理想はどちらですかと問われたら、しぶとく生きてかっこよく死のう。

それはまたライオンとして死ぬより、ロバとして生きようということか。

[次回執筆お願い 昭35商 大石 昭さん]

英語・英会話との格闘人生

昭40商 日隈 中 (生駒市)

始めて英語に接したのは中学1年の時であり、それから半世紀以上英語に接しながら未だに英語・英会話が苦手であり情けなくなる。苦手だっただけに今でも英語に関する苦労は鮮明に覚えている。

振り返れば大分県日田郡の片田舎の中学で Jack & Betty の教科書で英語を習い始め、以後半世紀以上に亘る英語との格闘が始まることになる。当時通っていた中学では何か特別の行事があると、いつも英語の授業が行事に振り替えられる始末でいい加減なものだった。いい加減と言えば自分もそうであったが、いま思えば当時の英語教師も(大変失礼ながら)いい加減な教師であったような気がする。

大分県立日田高校の入学試験でいきなりヒアリングテストが始まった。何せ中学時代に英語教師の話すというより読む英会話しか聞いたことがなく、外人の流暢な英会話を聞かされ面喰った記憶がある。面喰っているうちにヒアリングは終り、「今の会話に基づき次の問いに答えよ」と問題用紙が配布されたが、まるでチンプンカンプンでほとんど点数は取れ

なかったのではないかと思います。しかし、運が良かったのか何とか合格はした。最初の英語リーディング授業で、中3の教科書と高1の教科書では語彙・文章構成など難易度が格段に違い、そのうえ九大卒新鋭の英語教師の発音は中学教師のそれとは全く異なり、どうして一足飛びにこんなに難しくなるのか！と憤慨した。しかし、難なく理解する市内中学から来た級友も多く、自分が理解出来ないだけだと愕然とした。

大学では英語の単位は何とか取得したものの散々な結果であった。宮沢健一助教授(当時)のゼミで、ケインズの理論経済学の分厚い原書が渡され、エツ！これを読めと言うのか！と、もうほとんど絶望的であった。出来なかった記念に今でも保存しているが、それなりに手あかが付いており辞書を片手に一応目だけは通したものとみえる。

当時の三井銀行の就職試験を受けたが、一次が課長面接、二次が部長面接、三次が役員面接であった。一次では受験者50人いたのが、二次では20人になり、三次は10人と段々減り何か嫌な面接方法であった。そのうえ人事担当常務から最後に「それにしても君！英語の成績は芳しくないね。」と言われ面接が終わった。これは落ちたと思えば逗子の下宿先に戻ったら「明朝9時人事部に来られたし」との電報が届いており何故かまた運よく合格した。最初の大阪西支店と次の横浜支店で外国為替課に配属となり、銀行はいじめをするつもりか！と思った。英語読み書き苦戦の7年間であった。外国業務関係に携わっていたら将来エライことになるかと融資課への配転を何度も申し出たが、10年目にいじわるの極みインドのボンベイ支店への転勤辞令が出た。取引先の大半はインド・欧州系企業であり、読み書きに加え今度は英会話の苦闘が始まり、もうやけくその気持で破れかぶれの会話だった。晩年は国際業務部にも配属され海外出張も多かった。自他共に認める英語・英会話苦手な人間を何故斯かる配置にしたのか未だに分からない。



右端が筆者

銀行の斡旋で現在の新田ゼラチン(株)に再就職したが、この会社がアメリカ・カナダ・インドに5社の子会社があり、トップは全て現地の人でありこれまた英会話が必要となりいつまで苦しめられるのだと本当に思った。海外出張、テレビ会議、電話会議、国内本社での会議、夕食会などいつも四苦八苦の連続であった。しかし、再就職先であり嫌だとか、苦手だとかは言っておられなかった。社内の英会話の達者な社員に上達方法を聞いたら「恥を恥と思わず、とにかく喋り、慣れることです！」と言われそれを実践するしかなかった。

確かに外人はこちらの力量に合わせ、語彙や話すスピードなど配慮してくれる。彼らと親しくなると「あんた達は日本企業の現地社長だから少しは日本語を勉強しろ！」と言ったが、「ビジネスは英語が共通語です！」と一蹴された。

2010年6月末に常勤勤務から非常勤となりようやく半世紀に及ぶ英語との格闘は終わった。今は時間があり余るほどあり、仕事に関係なく気楽にNHKの英会話講座や外人歌手CDなど聴く毎日である。

〔次回執筆お願い 昭40商 小坂 勝之さん〕

ある日ある日の通院

昭40文 青柳秀克(春風太郎)(京都市)

(ある日)7月5日9時に京大病院糖尿病内科豊田健太郎先生(私があった中でも屈指名医・腕も人間も)の診察がある。

通常のバスに代え自転車でゆっくり向かう。北行したり東行したり通りを変えながら走る。まず、三条堀川を東に室町通りまで行き北上、そして、御地通りを突っ切り、評判のレストラン「蒼」を見ながら、烏丸通りの蛤門から御所に入る。苑内、自転車1台やっと走れる細い砂利道に行く。

涼をとり、うまい空気を吸いに、緑陰にも入る。静寂と小鳥の鳴き声。しばし憩う。今出川側だと同志社の洒落た校舎を楽しめるが、今日は寺町側。梨木神社を横目に、周辺の府文化芸術館・市歴史資料館・山本富士子が卒業した京都府立鴨沂高・義兄が入院していた府立医大病院などを巡る。そして、曾我氏従兄弟の山本歯科がある河原町今出川出る。大先生は私と違い、ウデも人間もピカイチの先輩。公私とものお付き合いがしたい方‘一杯やろう’のお声がかかりますよう楽しみにしている。賀茂大橋で鴨川を渡る。♪鴨の河原に千鳥が騒ぐ。このあたりには私の好きな、上鴨下鴨の神社がある。次回は早出して廻ろう。



さて、川端通りを南行。東に京都少年鑑別所・京都精華女子高・京都ドイツ文化センター・京大東南アジア研究所、西に荒神橋を見ながら丸太町通りまで行き過ぎ戻る。北に1本上がった通り（角に京阪鴨東線の神宮丸太町駅の下り階段）を東へ、北側に4月入院した古い病棟。南側に京都府教育会館を見ながら病院の自転車置き場に到着、所要約1時間弱。監視員と会話し院内に。幸せ実感の自転車小旅が終わる。診察後は寄り道も迂回もせず、最短距離を早々と帰宅。明日の診察に備える。

（ある日）7月6日眼科村上智昭先生（応対は好感もてる）の診察検査。瞳孔を開く網膜症と白内障検査のため、自転車は危険、バス1日券で行く。楽だがちょっと物足りない。診察終了まで、久し振りに4時間かかった。結果は、8月10日レーザー、4~5ヶ月後白内障手術とのこと。これで、はっきり見えるだろう、楽しみだ。

帰りは、バスを乗り降り大廻り。百万遍から北大路通り・植物園・大徳寺・船岡山・鷹峰・竜安寺・御室仁和寺・妙心寺・花園・立命大・仏大・金閣寺・西大路通り・わら天神・平野神社。達磨寺、何処も寄りたい見所だが、目が辛いので車窓から。

帰宅後が又楽しい。資料の整理と学習。自由な学習が面白いなんて昔は思わなんだ。今日は、憲法・教基法・指導要簡・野村克也語録・東大ジェロントロジー（老年学）プロジェクト・南禅寺・祇園祭・妙心寺・無隣庵・新聞・TVのメモなど手当たり次第100%満足。

汗を噴き 山鉾仕舞い 継ぐ心 太郎

浜大青春グラフィティ

昭50商 大井 孝（京田辺市）

数多の市大生が同じ状況だったかは定かではありませんが、私に関して言えば、志望大学に一浪してまでチャレンジしたものの、願い叶わず、まんじりともせず、市大に入学させていただいたというのが、正直なところでした。キャンパスの雰囲気も、私たちが入学するほんの二、三年前まで大学紛争で社会を賑わしたとは到底思えない状況で、一部のセクトがこじんまりとアジを叫んでいる程度でした。

入学当初、目標を見失った根なし草のように過ごしていましたが、教養課程のクラスメンバーの中に、気の合う友達が現れ、彼の強烈なリーダーシップのもと、なんと、私にとって想像だにしていなか



った、自動車部の門を叩いておりました。

大学の授業というものは、向学心のある者にとっては、価値ある時間なのでしょうが、少なくとも私にとっては、語学の授業以外は、積極性を欠いてしまう状況でした。そんな中で、友人の後押しとはいえ、クラブに入らせていただいたことは、社会人の第一歩を記すに相応しく、有意義に活動することができました。

自動車部は、比較的少人数の同好会的な部でしたが、良き先輩に恵まれ、私の生活の大半が部の活動に費やされるほどでした。従って、大学と関わっているというよりは、その枝葉である部が大学生活そのものとなってしまいました。

ここで、当時の部活の状況を回顧してみたいと思います。何せ約四十年も前のことなので、順不同で思いつくままに、書き記してみます。部室は、プレハブの長屋の一角でしたが、それ以外に、崖の下の薄暗い場所に、昔弾薬庫かなんかに使用された小さな建物があり、それが、自動車部の整備室として、使用されておりました。中には、廃車された「日野コンテッサ」が眠っており、あたりには、自動車部品が散らばっていましたが、見よう見まねで、エンジン解体や各部品の名称・働きなどを楽しく学びました。恥ずかしい話ですが、解体はしたもの、復元することができなかったことを今でも記憶しております。

一年生の夏休みは、津久井郡（？）の方で、廃屋のような自動車教習所を借り切ったので、徹底した運転免許取得のための訓練合宿を楽しみました。そして、残った夏休みを利用して、各自郷里へ帰り、直接試験場に行き、免許を取得してくることとなっていました。各県によって免許取得の難易度がまちまちであり、当時、神奈川県が最も厳しい状況でした。私は、郷里が山形でしたので、二回で合格しましたが、私を自動車部に誘った友人は、神奈川県だったため、たしか、九回目ぐらいで合格したはずです。

一年生総勢六名が、晴れて運転免許を取得し、意気揚々とキャンパスに帰ってきましたが、中に一人だけ、最新型の「スカイライン」をこれ見よがしに乗ってきた男がいました。我々曰く、「和歌山のぼんぼん」でした。これを機に、他の同級生も、実家にねだったり、自力で手に入れ、車でキャンパスに乗り入れるようになりました。ただ一人、私だけが、実家に強請るわけもいかず、かと言って、自力で購入するほどの余裕もありませんでしたが、生来の楽天家が功を奏し、各自の車にちゃっかり乗せてもらってはしゃいでおりました。それを、とやかく非難めいて言う者は一人もおらず、皆自動車部を愛する友として受け入れてくれ、心を一つにすることができました。

学生時代の友人というのは、本当に、気兼ねなく

付き合える、人生の宝と思います。それぞれ、進む道は違っても、会えばすぐに打ち解けることができますし、今でも親しく賀状を交わす間柄です。それは、同級生とは限らず、先輩・後輩も同じです。現在、進交会近畿支部で役員として活躍の先輩も、長年気兼ねなく付き合わせていただいております。進交会に誘っていただいたのも、彼ですし、何から何までお世話いただいております、感謝に堪えません。

あの、懐かしい浜大キャンパスで過ごした、青春は、人生において、かけがえのないものとして、今も、心の中に息づいております。

来年9月に還暦を迎える身ですが、まだまだ、人生道半ばと思っております。今後もこの宝物を大切に、人生を楽しんでいきたいと思っております。

次回原稿を「西大寺味噌せんべい」の横田博司様をお願いできれば幸いです。本当においしいせんべいでした。

〔次回執筆お願い 昭59商 横田 博司さん〕

浜っ子の大阪生活17年

平6商 松野 友明 (茨木市)

大阪生活17年と題してみたらいろいろ思い返すこともあり、いろいろと書けるのではと思いましたが、なかなかこれといったものが思い当たらなかったの、自分の中でインパクトの大きかった大阪生活をスタートした当時のことを振り返ってみたいと思います。

昭和47年3月の誕生から市大卒業まで横浜で生活してきた私が、初めて他府県で生活することになったのは、社会人としてのスタートを切った平成6年4月のことです。

入社式から1ヶ月間、本社のある大阪での集合研修ということで、大阪・四条畷（生駒山地・清滝峠の途中）での寮生活が始まりました。

OB訪問から面接を重ね入社となりましたが、訪問した先輩から「東日本採用者は90%以上東日本配属」、人事担当から「集合研修後、各地へ配属となるので、最低限の荷物で入寮すること」との言葉と、実家の近くに営業所があったことから、何の根拠もありませんが、東京・横浜を中心とした関東近郊での勤務になるだろうと思ひ、せっかくなので研修期間中の休みには大阪を満喫しようと、特に不安もなく新横浜から同じく「浜っ子」の市大卒同期2人と新幹線に乗り込みました。

2週間後、いよいよ配属発表、部門毎に発表が始まりましたが、希望していた部門では自分の名前が呼

ばれず、徐々に不安が募ってくるなか、最後の最後に「本社部門」で発表がありました。ここでも、東京・田町に「東京本社」があるので、そこで仕事をするのかと思っていたところ、詳細発表で職務として考えていなかった「経理部」への配属、「勤務地：大阪本社」と言われたその瞬間、頭の中が真っ白になりました。

その日の晩の寮は、希望通りの配属になったものは喜び、私同様希望が叶わなかったものは、酒を飲んで荒れたり、落ち込んだりとさまざまな感情が入り混じった異様な雰囲気だったということ、そして「もぬけの殻」となっていた私を心配してくれた市大卒同期が、週末に気分転換に飲みに行こうと寮から半ば強引に連れ出してくれたことを思い出します。

なぜここまで落ち込んだのか考えてみると、配属希望が叶わなかったということもありますが、それより大学のサッカー部をはじめとする体育会各部の先輩・同期・後輩たちとの交流がこれまでより密にできなくなるということから来ていたのではないかと思います（決して、電車での友人との話で「～じゃん」といったら、周りの人が一斉に鋭い視線を浴びせてきた恐怖からではありません）。

小中高も横浜で、そのころからの友人との交流も頻繁にできなくなりますが、何せ大学4年間が非常に密度が濃く、自身のバックボーンになっていたことで、その支えがなくなるのではという心配からだったかと思ひます。

別に、海外に行くわけでもなく、もう会えなくなるわけでもないのに、なぜか一人取り残されたような寂しい気持ちが心を占めていて、連絡がなかなかとれない状態がそれを増長させたのかとも思ひます。

当時はインターネットも携帯電話も普及してないなかで、寮の電話も100人弱の寮生に対して受信が3回線の呼び出し方式（夜22時まで）、発信は公衆電話が3台という状況でした。これまでは電話は要件を手早く連絡するものとしてしか考えていなかったのですが、「XXX号室 松野さん、電話です」という呼び出しがこれほどまでにうれしいものか（ちなみに、



H6卒の同期と（中央が筆者）

呼び出しが男性からの電話だと「電話です」、女性からの電話だと「お電話です」となります。私に「お電話」が掛かってくることはほぼありませんでしたが・・・)、またそれが「次の連休のときに飲み会やるから、絶対参加ね」という連絡であれば、何倍もうれしく感じたことも思い出します。

そんな思いをもってスタートした大阪生活でしたが、寮生活ということや、会社のサッカーチームに所属したことで新しい仲間も増えて、関西弁もしゃべれる(?)ようになり、少しずつ大阪の生活にも慣れてきました。会社生活が中心となり、気がつけば30歳、満期退寮ということ一人で暮らしをはじめ、(これも全く予想していなかったことですが)ついには京都出身の妻を迎え、茨木に家を買うまでになり、時間的にも人生の半分が大阪生活になろうとしています。

そんな中でも、まだまだ私の中では「市大体育会」の係わりが、大きなウェイトを占めつづけています。近い先輩、同期、後輩との交流(という名の飲み会)は常に心をリフレッシュさせてくれ、パワーを与えてくれるもので、欠かすことのできないものとなっています。私は「浜っ子」ではなく「浜大っ子」なのかもしれません。

遅まきながら一昨年10月の進交会の集いに参加し、諸先輩方に温かく迎えていただきました。関西にも多くの「市大」「横浜」のキーワードで結びつく方々が居られ、見守っていてくれるという安心感も加わりましたので、いつまで続くのかはわかりませんが、改めて、大阪での生活を頑張り、楽しんでいこうと思います。

[次回執筆お願い 平6商 狩野 哲郎さん]

Y校358会50周年クラス会

昭35Y 内田 正雄 (吹田市)

我々「Y校358会」は、昭和35年卒業の貿易科(8組)クラスの名称で、担任は山下弘二郎先生でした。卒業時は男子26名、女子25名の計51名のクラスでしたが、50年の歳月に残念ながら、すでに鬼籍に入っている方が山下先生と7名、住所は確認出来ない方が4名います。



貿易科は1年から3年までクラス替えが無い為か、団結力が強く、気心の合った仲間です。最近では年1回のクラス会の他、年数回好きなメンバーが集まってゴルフ懇親会(直近はクラス会の前日に実施)・ハイキングを行っています。

今回は、卒業後50周年を迎える記念のクラス会

を平成22年11月26日横浜中華街の「均昌閣本館」で行いました。遠く兵庫・大阪からの仲間など20名が集い、たちまち50年前の学生時代に戻り、良く食べ・飲み・昔話に花を咲かせて楽しい一時を過ごしました。最後は全員でY校校歌を斉唱し、来年の再会を約し、予定時間を大幅に超過してお開きでした。

会までの時間に大阪から来た私の希望で、級友2人とお上りさんよろしく、進交会館とY校新校舎見物に行きました。進交会館では事務の方が外出中であつた出原事務局長と連絡を取ってくれ、丁寧なもてなしを受けました。またY校では、吉田副校長自ら校内を案内してくれ、元気で受け答えのはきはきした素晴らしい後輩と会話が出来、大変頼もしく思いました。紙面からではありませんが双方の方々から心よりお礼申し上げます。

かきくけこ人生

昭39商 中原 悠司 (箕面市)

この3月で節目の70歳となりました。今は合併して鳥取市となっていますが、日本海から6キロあまり中国山地に入った田舎で育ちました。高校時代までは祖父母、父母、兄妹の7人家族でしたが、3年前に兄が、昨秋妹が鬼籍に入り、私一人取り残されました。今後の10年間を生きる心の糧として「かきくけこ人生」を送ろうと思います。



か 感動する心を持つ

マーケティングでは感動ホルモンを出させる商品とか、サービスの開発が重要ですが、感動する心をお持ちですか。旅先で味わう自然のすばらしさ、自然の驚異、琴線に触れる読書など。私も月に1回は山に登っていますが、青空に映える雪と紅葉の榊池高原、黄金色のぶなの黄葉を登った秋田県側の白神岳、その前年はガス(雲)に煙る幻想的なぶなの巨

木林を歩いた青森県側の白神山地、その前はスイスアルプストレッキングなど。これがあるから山登りは止められないということです。

き 興味を持つ

何か熱中できるものをお持ちですか。趣味をお持ちですか。TV を見たり、本を読んだり、花や盆栽をいじったり、野菜を作ったり、陶芸や書道、絵画、ジャズ・民謡・カラオケその他なにか興味を持ちたいものです。熟年者対象のボランティア活動や、全国的な団体の活動が活発です。私も今年大阪府高齢者大学校「自然と文化」クラスに入り、趣味の山登りに活かしたいと思います。

く 頭を使って工夫しよう

脳年齢の若返りや、脳の活性化をうたった本やゲームが流行っていますね。頭を使う、手足を使うことは、最大のボケ防止ではないでしょうか。先ほどの趣味にも同じことがいえますし、読書したり、パソコンをつかったり、メール通信をすることは年齢に関係なくできることです。「しんこう」の編集作業も頭と手を使います。

け 健康に気をつける

言うまでもないことですね。「8020 運動」という言葉をごぞんじですか。80 歳で自分の歯を 20 本以上残そうというすすめです。私ももう少しで 20 本を切りそうです。自分の歯をたくさんお持ちのかたは、食べ物を咀嚼する力が強く、嚙む回数も多くなり自然と健康的な食生活といえます。

こ 恋心をもとう

最後の「こ」は恋心です。異性にときめく心です。もう年だからとあきらめないでください。素敵な貴女・貴方を見つけて胸をときめかしてください。そうすればファッションも、心も、体も若返り確実です。「これがザ・ラスト・ラブね」と告白されるかも知れません。

[次回執筆お願い 昭 40 商 小林 博さん]

卒業してから 40 年

昭 46 商 岡崎 智 (枚方市)

今から数えて 40 年前の昭和 46 年 3 月末、松下電器の入社が決定していた私は、初めて住むことになる守口市に来て会社の独身寮(松雲寮)に入寮した。4 月から約半年間の研修を受け、その年の 10 月下旬に茨木市の



テレビ事業本部海外営業部に配属され、同敷地内にある寮から通勤していた。最初の 3 年間は主としてアメリカ向け輸出用テレビの受注管理と出荷業務を担当していた。とても忙しい毎日だったが、面倒見のよい上司や同僚と一緒に温かい雰囲気の中で働くことができ、その当時のことは今でも鮮明に覚えている。

その後、海外営業部はテレビ輸出事業部となり、生産事業部も茨木から門真に移った。松下電器にはまる 5 年間お世話になったが、大阪府の教員採用試験を受け、昭和 51 年 4 月 1 日守口市立第四中学校に着任、中学校教員としての新たな生活が始まった。

市大での経験から中学校ではバドミントン部の顧問をすることになり、特に、昭和 55 年 4 月に新設校に転勤してからの 10 年間は、朝練と放課後の練習の毎日だった。最初は練習時間の不足を補うために始めた朝練も、そのうち、練習中止は定期テスト期間中だけとなった。その後、3 校目の学校への転勤以降はクラブ指導から遠ざかり、45 歳からは全く足を洗った。ただ、校長となってからは、市や地区の中体連事務局など、クラブ関係の仕事を担当するようになった。中でも、平成 15 年 8 月、藤田中学校男子バスケットボール部が、守口市として初めて近畿・全国両大会で優勝したが、その瞬間その場に校長として立ち会うことができたことは、今でも私の心の中に大きな感動として残っている。5 年後の平成 20 年 3 月 31 日に無事定年退職した。紆余曲折の多かった教員生活だったが、終わってみればあっという間の 32 年間だった。

退職した翌日の 4 月 1 日から、同じ守口市内にある大阪国際滝井高等学校にお世話になり、募集顧問として今日に至っている。募集のイベントは休日や祝祭日に行われるので、夏季休業日以外にまとまった休暇がとれないのが難点である。しかし、妻は、「もういらないと言われるまで今の仕事を続けてほしい」と言っている。退職後の休日には、自分の興味のあることを本や資料で調べ現地に出かけるようにしている。



昨年春頃からは、京阪電車旧 8000 系特急にはまり、カメラやビデオをもって出かけている 10 年ほ

ど前に、京阪京都三条駅で、時代祭の絵が車体一面に描かれている特急を見る機会があり、とても京都らしい雰囲気を感じた。昨年、インターネットで、その特急の内外塗装がリニューアルされることを知ったが、その時から私の「追っかけ」が始まった。残念ながら、昨年9月2日で「時代祭行列絵巻」の描かれている旧8000系特急車両は運行終了となり、今では旧3000系特急車両1台のみとなっている。それも今年で運行終了予定とのことなので、それまでは暇を見つけて時々「追っかけ」を続けてみようと思っている。

[次回執筆お願い 昭45商 松井 勤さん]

会員異動のご連絡

- 昭37商 広滝満彦：平成22年12月24日ご逝去
 昭39商 石原浩：新住所：〒562-0043
 大阪府箕面市桜井1丁目18-36。
 昭43商 由良智：ご逝去。
 平6商 狩野哲郎：新規：〒662-0956 西宮市
 下葭原町1-32-302。携帯：090-3350-9355
 伊藤忠商事㈱繊維カンパニー、TEL06-6241-2982
 平6商 松野友明：新住所：大阪府茨木市駅前4-6-11-907
 平7商 松下裕次：新規。〒515-0824 三重県松阪市
 平成町61-5。携帯090-4866-6156
 パナソニック電工㈱制御機器本部 TEL06-6906-2603
 平6文 熊澤真一：勤務部署変更。新部署：パナソニック
 液晶ディスプレイ㈱ TEL079-246-7571

平成22年度運営会費納入者ご芳名

- ご協力有難うございました。
 前号掲載後の運営会費納入者は次の方々です。
 (23.3.15 現在 数字は卒業年次)
 (Y 校) 昭30 川嶋鉄子
 (商学部) 昭33 中地三津夫 40 本田文夫平 6 狩野哲郎・
 松野友明 50 二階堂隆友
 (文理学部) 昭33 一階美都里 45 大澤 滉 平5 福西直介
 6 熊澤真一 7 古内秀樹

進交会近畿支部 幹事会 議事録

2011.2.2.(水) 18:00～ 於 門真市 松心会館
 出席者：深谷悦男 植田美夫 大石 昭 原 洋志 出射靖

郎 中原悠司 内田正雄 小林 博 泉 善高 白石富男
 森山 茂 竹田 博 麻野広行 川戸眞吾 塚本義久 山
 本詠子 杉野利幸 一色宏志

1. 本年の「近畿支部の集い」について

杉野・山本・一色幹事(写真左から)より会場・日程案が数件提案され、検討の結果、

10月12日(水)
 リーガロイヤルホテル
 19:00～開催
 されることに決定した。



2. 「役員改選」について

若い幹事を増員したいが、若い方は社業の関係で幹事会に出席して貰うのは無理ではないか。幹事会に出席願える幹事(60歳過ぎ)を説得する以外に増員は難しいのではないかと。上記のご意見を踏まえて副支部長会で名前の挙がった数名の方々には支部長または事務局長から連絡を取って説得を試みることにする。尚役員改選は次回幹事会で行いますが、支部長から現役員で余程の事情がない限りご留任をお願いしたい旨の要望があった。

次回幹事会：5月11日(水) 18:30～ 松心会館

編集便り 編集人 昭36文 原 洋志

「しんこう」48号をお届けするに当たり、この度の東日本大震災で被災されました進交会々員の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。テレビの映像で泥水と残骸で荒れ果てた街跡を見るにつけ、あまりの痛ましさに編集作業も手につきません。今は只々「頑張ってください」と編集員一同お祈り申し上げるそれだけです。「しんこう」過去1年分のPDF版を進交会本部のホームページに掲載しています。ご覧ください。

<http://shinkoukai-web.jp/>

トップページの「支部便り」をクリック。
 (原稿の送り先)

原 洋志宛 FAX：072-682-4193

MAIL: hara_yg88@tcn.zaq.ne.jp

又は中原宛 FAX：072-729-1362

MAIL: nakahara2001@hotmail.com

～予告～

平成23年度進交会近畿支部の集い

10月12日(水) 19:00～ リーガロイヤルホテルにて

学生当時の思い出の写真をお持ちでしたら、お送り下さい。集いの会場で皆さんと共に楽しみたいと思います。写真はお返しますので裏にお名前をお書き添えの上、事務局(泉)までお送り下さい(8月末締め切り)。
 〒573-0095 枚方市翠香園町22-3 konkonto-113-izumi@maia.eonet.ne.jp